

# 2017年9月12日 13:00-18:00

## 第1回 統合人間学シンポジウム 知の協働は いかにして可能か

東京大学 駒場キャンパス |

18号館 4階 コラボレーションルーム 1

学問の営みは、大学の内にのみ留まっていますよいか。

刻一刻と変化する現実の問題を捉え、解決を目指すことは、ただ分野ごとに切り分けてなされるものではないでしょう。絡まった糸のかたまりをほどくような作業には、慎重かつ柔軟なコラボレーションが必要不可欠です。

本シンポジウムは、五つの発表と議論を通して、社会における学問の営みのありかたを模索します。それぞれの発表は、大学における専門的な研究を踏まえながらも、実践的な課題を捉え直し、具体的な行動の可能性を提案するものです。

複眼的に問題を捉えるため、各発表には専門を異にするディスカッサントが参加し、分野を横断した対話を試みます。

知の協働はいかにしてなされうるか、その困難と可能性を熟考するのが本シンポジウムのねらいです。



Integrated Human Sciences Program  
for Cultural Diversity,  
The University of Tokyo

お問い合わせ先：

多文化共生・統合人間学プログラム プロジェクト2  
project2@ihs.c.u-tokyo.ac.jp

13:00-13:10 主旨説明

13:10-13:50

生きづらさの結節点としての福祉番組  
～公共放送とラディカル民主主義の  
接合に向けて～

田中瑛

13:55-14:35

ケアの現象学から「間柄」の倫理へ  
～哲学と医療社会学～

宮田晃碩

(コーヒーブレイク)

14:50-15:30

Reconsideration on  
the Sense of "Our Places" through  
Reading Theatrical Texts and Maps

Hiroko Tanabe

15:35-16:15

History Textbooks: Cooperation  
between Germany and Poland -  
Implication for East Asia?

Marcin Wróbel

(コーヒーブレイク)

16:30-17:10

大学を飛び出す言葉の科学  
～人工知能時代における認知言語学～

三田寛真

17:15 - 18:00

全体討論  
“広場”と“書齋”を行き来する研究

18:30- 懇親会